

日銀が保有するゴールドは大半が日本国内にないが、なぜ返還を要求しないのか

ドイツの中央銀行が保有しているゴールドが、ドイツ国内になく米国にあるため、返還を要求したとのことです。すべてがドイツ国内にもどったものではありませんが、一部は返還されました。国が資産を持つ時、外貨準備高として持つ方法があります。米国国債を保有してドル資産を持ち外貨準備高とするのが代表的な方法です。しかし国債の実態は紙切れです。これが価値があると多くの人が思っているから価値を持っているのに過ぎません。大きな経済変動が起これば、米国国債が実態の紙切れになってしまう恐れが十分にあります。だから資産を持つ時、それ自体が価値を持つゴールドで持つのが一番確実なのです。これは国家でも個人でも同じです。個人の場合は大量のゴールドを持つと、強盗により奪われる恐れがありますから、大量に持つことは難しいです。しかし国家の場合はどこも軍隊を持っているのですから、ゴールドを武力で守ることは容易なのです。自国のゴールドを他国に保管してもらう必要はありません。だからドイツが米国にゴールドの返還を要求したのは当然のことであり、国防上極めて大事なことです。

中央銀行の保有するゴールドが国内にないのはドイツだけではありません。日本も同じことです。日銀の保有するゴールドは日本国内になく、大半は米国にあるようなのです。「日銀が保有する金の『過半』はニューヨーク連邦準備銀行（FRBNY）に寄託している。残りは日銀自身が保管、ごく少量はイングランド銀行（英国）や国際決済銀行（BIS）に寄託している。」との国会答弁が過去にありました。それなのに日本は米国にゴールドの返還を要求していないのです。

戦争になった時何が必要でしょうか。まず武器でしょう。それで日本の国防を声高に言う人は軍備の増強を声高に言います。納得できることです。しかし軍備以外にもどうしてもなければならぬものがあります。軍資金です。軍資金がなければ、武器も買えないし人も動きません。米国国債は軍資金になりますが、戦争のような非常事態には価値がなくなり、単なる紙切れになってしまう恐れがあります。だから軍資金として一番役に立つのはゴールドなのです。そのゴールドが国内にないのに、それを声高に言う人がほとんどいないのです。国防を強く言う人さえそれをあまり言わないのです。これはどういうことでしょうか。

日本の戦国時代は織田、徳川、武田、上杉などが争っていました。織田と武田、上杉は対立していましたが、織田と徳川は対立していませんでした。それでも織田は自国のゴールドを徳川に預けるなどということは絶対にしませんでした。そんなことをすれば、織田と徳川が対立し戦争になった時、織田は徳川に負けることになります。

日本と米国は今は同盟国ということになっていますが、80年ほど前は全面戦争をした国同士です。米国が勝ち、米国は米国に都合の悪い人間を東京裁判で処刑し、米国の傀儡政権をつくりました。その時に日本のゴールドを米国が保管するようにしたのでしょう。戦後80年になりましたが、日本のゴールドはなお米国国内にあり、日本政府はその返還を要求していません。この事実は日本政府はなお米国の傀儡政権であることを示しています。